



箕面市人権啓発推進協議会

ニュースレターVOL18
2017年3月発行

〒562-0014 大阪府箕面市萱野1-19-4 箕面市萱野中央人権文化センター内
TEL/072-722-2470 FAX/072-734-6509
E-mail jinken-jimu-minoh@silk.ocn.ne.jp
http://wat-minoh.sakura.ne.jp/

「わっと」は当協議会の愛称です。
人権ってなに？の「What」と人権の輪が「わっと」
広がってほしい願いが込められています。

2017. 3. 4 人権啓発シンポジウム

わかりあおうとする社会へ

～図書館などでの差別落書きから考える～

公共施設で相次ぐ差別落書き事件を受けて

昨年12月、箕面市においては、市と本協議会が協力してみのお市民人権フォーラムに取り組んでいるさなかに、西南図書館の男子トイレに障害者に対する悪質な差別落書きが見つかりました。

その落書き以降、他の図書館の男子トイレ、貸し出し図書へと差別落書きが相次ぎ、内容も部落差別も含むようになり、1月には阪急電車茨木駅男子トイレで実在する特定の個人名が騙って差別を煽り立てるなどエスカレートしています。

市は、行為者の特定に向けて、箕面警察署への通報、施設の見回りなど対策を講じていますが、いまだ事件の解決の糸口には至っていません。

そこで3月4日らいとぴあ21で、市と本協議会が共催で、「わかりあおうとする社会へ」をテーマに人権啓発シンポジウムを行いました。

夢・風基金の牧ロー二さんをコーディネーターとしてお招きし、市民の皆さんとともに、相次ぐ差別落書き事件について市の報告を受けて、今後の取組について、それぞれの思いを出し合い、率直に話し合いました。



ハイトスピーチを許さないのポスターを前に牧ロー二さん（右側）と大道さん（左側）

まず、市からスライドを使って、公共施設などでこの間相次いでいる差別落書き事件について、具体的な報告がありました。

今回のコーディネーターの牧ロー二さんのソフトな語り口の進行にパネリスト以外にも、会場からたくさんの意見が出されました。



スライドを使った一連の差別落書きの経緯の説明

差別落書きの行為者に伝えたい気持ち、言葉

もちろん、差別落書きはなくしたい。差別はいけないことだと言うことは大切です。

気になることは、果たしてその言葉は行為者に届いているのだろうかということ。

自分自身の経験から言うと、人は孤立するとどうしようもないくらい気持ちが荒んでしまう。人



70名を超える参加者であふれる会場

間が駄目になる。そのときの自分と今回の行為者が重なります。

この行為者は皆から相手にされないとはいっている気がします。人間は網の形のように繋がっています。どんな形、角度からでもいいからこの網のなかで自分以外の人と繋がってほしい。

そのことで、差別落書きをすることがいかに馬鹿らしいことか気づいてもらえると思います。(牧口さん(文責 本協議会))



牧口さん



大道さん

人とのつながりをすべて否定される怖さ感じた

差別落書きは、一瞬にして人の心を壊す強い力をもった言葉です。いまだに震えが止まりません。怖いと思ったものの、すぐにこれはあかんと言うだけの勇気にはつながりませんでした。

親しい人やグループとこれはあかんやろうという話ができただけのも最近のことです。そこで思いを共有することができてすごく気持ちがすっとしました。

差別落書き事件のことを市民に知らせ

これはいけないという声をあげていきたい

市のホームページにはありますが、わかりにくく、まだまだ市民が知らないのが、広めていくことが大切です。そして「ヘイトスピーチを許さない」というポスターのように、これは許されないことだという声をあげていくことが必要です。

また、行為者が弱いものがさらに弱いものをたたくことで優越感を得るような状況に置かれているなら、なぜそうになってしまうのかということも落書きという形ではなく、きちんと意見をいう機会を作っていかなければなりません。(大道さん)

この後、牧口さんのコーディネートにより10人近い参加者から意見をいただき、この差別落書きに市民としてどう関わっていくのかについて、活発な意見交換を行うことができました。紙面の都合上、一つだけ紹介します。

『落書きの内容がエスカレートし、特定の個人がターゲットになっている。この個人に寄り添っていく取組を進めていきたい。』

他の方の意見は、残念ながら割愛させていただき、アンケートを一部紹介して雰囲気をお伝えします。

『人間として否定して抹消は許されない。行為に対して心が痛む。関係者として連携しながら、この悔しい思いを、社会のしくみのおかしさを、子どもたちや地域に伝え、考えていきたい。引き続きでもいいのでは。』

『たくさんの差別が起こっていることをもっと広報しないとイケない。知らずに済ませている、済んでいる人にいかに知らせるかが課題。』

『徹底して行為者を特定すること、そしてチラシ・ポスターで訴える。行為者がどう受け止めるかよりも、チラシ・ポスターが多くの人に勇気、パワーを与える事実と重さを大事に。』

当日、大道人権協会会長代行が閉会あいさつのなかで意見表明をさせていただいたように、私たち人権協は、箕面市人権宣言の趣旨に立って「にんげんを否定する」ことがらにしっかりと向き合い、それをなくすために行動したいと考えています。

この人権啓発シンポジウムのあとも引き続き、相次ぐ差別落書き事件に対して取組を進めていきます。

箕面市人権宣言
わたしたち、みな市民は、より豊かな
たの街をこころ愛して、この街に
み、この街を暮らすすべての市民のたの
りとして「人権を踏みしめ、決意を
すことがあつてはならないと願っています。わたし
たは、この街に、引きも切らずに、心
げんを否定する、を、し、か、と、向、合
それをなくすために行動したいと考
このように、愛するこ、願うこ、考、も、こ、
行動することは、みな市民のたの、か、な
誇りです。わたしたちのために、あなたのために、
みんなのために、にんげんの街のたの、
育つて、日本国憲法のこ、市民
の風で、箕面市を「人権の街」と
宣言します。
平成五年(一九九三年)七月全旨
箕面市

いっさいの差別を許さないために

話す、語る、伝える、分かち合う

第31回みのお市民人権フォーラム

12月の人権週間の箕面市の恒例事業となったみのお市民人権フォーラム、回を重ねて第31回を迎え、昨年12月3日(全体会と第一分科会)、4日(第二から第六までの分科会)の二日間の日程で開催されました。(本協議会は実行委員会の事務局を担っています)

全体会は、フォトジャーナリストの大石芳野さんをお招きし、「福島 FUKUSHIMA 土と生きる」をテーマに、福島でご自身が被災された方から聞き取りされたお話と写真をもとに、福島のいまの状況を伺い、いまだに原発事故の深刻な影響のもとにあること、復興とはほど遠い状況にあることをあらためて認識する貴重な機会となりました。



大石芳野さんによる講演

二日間にわたって開催した第一分科会から第六分科会には合計400名の参加があり、地方自治、部落問題、教育、女性、障害者、外国人などそれぞれのテーマのもと、活発な議論が行われました。



「鼓吹」の演奏

また、全体会では、講演にさきだち、結成20周年を迎える北芝解放太鼓保存会「鼓吹」の皆さんに演奏をいただき、太鼓の若々しく力強い響きが会場を埋めた600人近い参加者を魅了しました。

日時	テーマ	参加者数
12/3 全体会	福島 FUKUSHIMA 土と生きる	595
12/3 第一分科会	震災を越えたまちづくり	72
12/4 第二分科会	どう向き合う 部落問題のいまとこれから	65
12/4 第三分科会	女性が体験した東日本大震災そして復興へ	58
12/4 第四分科会	箕面にもある！子どもの貧困	83
12/4 第五分科会	ちがうことこそええこっちゃ	62
12/4 第六分科会	「私は日本で生きています」	60

被災地訪問スタディツアー（2016年7月）

2016年7月に本協議会男女協働企画啓発研究部会主催で、東日本大震災で被災した宮城県に訪問スタディツアーを行いました。

東日本大震災の災害時から繋がった女性のネットワークを生かし、そして被災地を忘れないために、被害から復興に至る経験を女性の立場から共有する目的で、8名の参加がありました。

また、被災地では、みやぎジョネット（宮城県仙台市）、イコールネット仙台（宮城県仙台市）、NPO

法人ハーティ仙台」（宮城県仙台市）などの団体の方や個人の方を訪ねて貴重なお話を伺い、意見交換をすることができました。



南三陸町防災対策庁舎とジョネットハウス

スタディツアーの報告書は、本協議会のホームページでご覧いただけます。 <http://wat-minoh.sakura.ne.jp/>

2017年新年互礼会

今年の幕開け事業である「新年互礼会」は、1月28日（土）らいとびあ21で開催し、90人ほどの参加者で盛況のうちに終わりました。

第一部では、ひゅーまんの部屋を活用し、萱野小学校や箕面市立病院の院内学級でおはなし会を続けられている「お話サークル たんぽぽ」の皆さんによる読み語り「きつねのホィティ」の上演でした。「私たちが本と子どもたちをつなぐことで、子どもたちの世界が広がり、大人になった時、暖かい思い出になることを願って・・・」という活動の思いが伝わる暖かい時間・空間でした。

そして、本協議会の相談役である津田尚廣弁護士からの報告「ピア・エディエーション教育によるエンパワーメント」では、暴力ではなく対話によって問題解決できるという文化を創造し、皆がエンパワーメント出来る社会を創ろうという趣旨の話でした。

また、東日本大震災から5年、被災地の女性を



中心にこの大震災でどのような体験をし、今、どのように生きておられるのかを知る被災地スタディツアーを昨年7月に実施した男女協働参画研究啓発部会の皆さんからの報告がありました。

どの発表・報告も人を知る、人をつなぐ、人を包み込む人権意識や人権感覚がベースにあるものでした。

第二部は、テーブルを囲んでの懇親会。いつものマイク回しもあり、人権協に参集する組織や個人の話で盛り上がりました。

1人1人が自分らしく生活し、活動しようとしている営みを脅かす人権侵害である一連の差別落書き事件に対しては、明らかに犯罪であり、いかなる理由があっても許すことができない。そして、そのことにきちんと取り組んでいくことを参加者全員で確認し、閉会しました。



編集後記 事務局に新たにいられた方から一言

○人権協のお手伝いをするようになって10カ月がたちました。らいとびあは、施設利用者として馴染みのある所でしたし、人権協という名前も聞いたことがありましたので、何も考えることなくスタートしました。しかし、知れば知るほど人権協の組織の深さ広さに驚いております。集まって来られる方々の穏やかながらも深く熱い思いを感じながら、私も勉強させていただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

○お恥ずかしい話ですが、こちらでお世話になる9か月前まで、らいとびあのある地でも人権協の存在も知らずにいました。しかし、人権フォーラム、ヒューマンネットワーク21の活動の中で関連団体や研究部会、地区協など多くの人が携わり、細やかに作り上げてゆく様子を目の当たりにし、活動されている方々の人権に対する強い思いや願いを感じま

した。私事ですが他市で外国人おやこの居場所づくりの活動を行なっています。こちらに来てから見方や感じ方が変わってきたように思えます。丁寧に相手の話を聴いているだろうか。同じ目線で立っているだろうか立ち止まって確認している機会が増えました。

これからも人権協でのお手伝いを通し、多くを学んでいきたいと思ひます。

○人権協の活動には長年携わってききましたが、改めて事務局の仕事って何だろうと思う1年でした。それぞれの活動が自分の中の人権意識を確かめたり・高めたり・広げたり・深めたりできるようにサポートしながら、私自身がたくさんの人たちとの出会いを楽しんでいきたいと思ひます。